



Rail Corridorに見る シンガポールの パブリックスペース

北陸銀行 シンガポール駐在員事務所
所長

上原 清志

はじめに

ここシンガポールは、自然保護や建築物などの遺産保護に大変力を注いでいます。高層ビルや数々の観光スポットなど、ASEANビジネスの中心都市・観光都市としてのシンガポールはお馴染みですが、郊外に足を運べば街と自然とが融合したスペースが数多く存在する環境都市であることにも気が付きます。そのため、自然を活かしながら建築遺産などをパブリックスペースとして次世代へ遺す国家プロジェクトが数多く存在します。

そこで今回は、自然と旧マレー鉄道跡地を融合させた「Rail Corridor」をパブリックスペースの一例としてご紹介したいと思います。

1. Rail Corridor (レールコリドー・鉄道回廊)

「Rail Corridor」は、シンガポールを南北に縦断している旧マレー鉄道跡地（全長24km、2011年廃線）を新たな市民の憩いの場とすべく、シンガポール都市再開発局（URA）が掲げたプロジェクトです。「非凡で感性を刺激するパブリックスペース」として再生というコンセプトに基づき、以下のプロセスで進められています。



シンガポール国内におけるRail Corridorの全体図（赤色の部分）



パブリックスペースとなったRail Corridorの遊歩道

①パブリック・エンゲージメント (2011年～2014年)

線路跡地の近隣には非常に豊かな自然と多様なコミュニティゾーンがあり、対話集会やセッション、ソーシャルメディアなどさまざまな形で地元住民から意見を聞き取っています。シンガポールでは、政府関係者や専門家だけでなく、近隣住民も公共プロジェクトへ積極関与（エンゲージ）することに非常に重きを置いています。

②マスタープラン策定・地域住民ワークショップ (2015年～2019年)

地域住民からのアイデアを参考にして、マスタープランの策定を開始（設計案をコンペ方式で選定）。自然や生態系を極力維持しながら、シンガポールの経済成長を支えた旧マレー鉄道跡地に遊歩道や自転車道などを設け、近隣コミュニティ発展にも繋がるパブリックスペースへと生まれ変わることとなりました。

③Rail Corridor (Central) の開発および 暫定利用の開始 (2019年～)

まずは約10kmのプロジェクトが開始され、Rail Corridor (Central) という約4kmの大半を整備し供用を開始（2021年春）。自然を感じながらのウォーキングやジョギング、サイクリングが可能であり、週末には多くの人が訪れます。所々に枕木を活用した歩道や昔の線路を残したエリア、旧マレー鉄道の面影を残す旧駅舎（現在整備中）などもあり、いわゆるインスタ映えスポットとして非常に人気です。また、同区間は公共交通との接続が良く、バスや電車で気軽にアクセス出来るため、近隣住民に限らず遠方からも多くの人が足を運んでいます。

線路が撤去されただけの未整備部分も遊歩道となっていますが、途中行き止まりや整備工事による迂回路設定などがあります。最終的には旧マレー鉄道の



旧マレー鉄道の面影を残すOld Bukit Timah Railway Station

Tanjong Pagar駅～Woodlands国境駅の全区間が、自然を感じられる憩いのパブリックスペースへと生まれ変わる予定です。

2. シンガポールにおける パブリックスペースとは

シンガポールにおけるパブリックスペースに対する基本的な考え方とはどのようなもののでしょうか？シンガポール都市開発局のWebsiteを見ると以下のように「PLACES」につなげたAcronym（頭字語）で説明されています。

• People & Programming

住民交流が活発になるような魅力的なスペースを作りあげることでさまざまな効果が生まれ、コミュニティ以外の人々もその場所へ気軽に足を運ぶことが出来る。

• Lush Landscaping

都会の空間に緑豊かな風景を作り上げること。豊かな緑樹や静寂な水域があることで、レジャーやレクリエーションの目的地になる。

• Accessibility

天候に左右されず人々がアクセスできるスペースであること。特に公共交通機関とのアクセスは重要。そのようなスペースでは人々が友好的になり、近隣コミュニティにとっても有益な存在となる。

• Comfort

読書やつかの間の休息を取る際の適度な木陰や十分な数のベンチ、日当たり確保などを備えることにより、快適なパブリックスペースが出来上がる。

• Excellence in Design + Eye for Detail + Engaging

素晴らしいスペースを作り上げるには、洗練され隅々にまで行き届いたデザインが必要。つまり、魅力的な場所を開発する際、デザインのいかなる側面も見落とされるべきではない。

• Sense of Delight + Sharing of Spaces

友人や家族、見ず知らずの人たちが、同じ空間で楽しみを分かち合い交流できる場所であること。素晴らしい風景・ユーモア感ある飾り物・素敵な植樹などが

備わったデザインにより、気軽に集まれる場所であること。忘れ去られたようなスペースや路地などでも、ちょっとしたアイデアで人々が集まる素敵な場所になり得る。

シンガポールにおけるパブリックスペースとは、単純な公共の空間という考え方とは少し異なり、そこにいる全員が居心地の良い、自分たちのお気に入りのスペースと感じられることが求められているように思います。

そのためには、住民などから多くの意見を求め、さまざまな角度から検証されたのち、開発計画が完成されるプロセスが重要です。例えば、役所や専門家だけでコンセプトやデザインを設計し、いざ出来上がってみると不評なパブリックスペースになってしまったというケースとは一線を画しています。やはり、地域住民との対話や積極的なプロジェクト参加というプロセスが必要不可欠だと感じます。

おわりに

国の政策として「City of the Garden」を目指しているシンガポールですが、いまある自然をいかに保存しながら有効活用するか、都会をいかに緑化していくかということに対して、並々ならぬ意欲を感じます。

パブリックスペースについても基本的な考え方である「PLACES」に沿った開発が行われており、結果として「City of the Garden」に結び付いています。今回ご紹介したRail Corridorは、自然と旧マレー鉄道跡地をいかに融合しながらパブリックスペースへと変貌させるかという難題に取り組んだ一例であり、人々の集まりを見ていると正に成功事例の一つだろうと思います。

余談ですが、Rail Corridor (Central) では日本企業のデザインが採用されています。Rail Corridorは、ジョギングやウォーキングをしながら自然も感じられ、Good Vibes（いい雰囲気）を得られるお勧めの場所です。（野生動物も多く生息しているため、早朝や夜間は注意が必要！）



遺産として保存される1932年に開通したトラス橋